

講義ユニット名	ウイルス学		所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学 (内線 5157)	
		メール	tsaka@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学 (内線 5157)	
		メール	tsaka@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	主として講義形式でおこなう。演習として、小テスト、アンケートなどを行うことがある。実験を中心とした実習を行う。			
概要	ウイルス学は病原微生物学の一分野である。ウイルスはヒトに多くの病気をおこし、臨床的にも問題となる。本ユニットの講義実習では、ウイルスの性質、増殖機構を理解し、さらに病気、その予防と治療についての知識を習得する。			
講義ユニットの 到達目標	<p>ウイルス粒子の構造を図示し、各部の機能を説明できる。</p> <p>構造と性状によりウイルスを分類できる。</p> <p>デオキシリボ核酸<DNA>ゲノムとリボ核酸<RNA>ゲノムの複製・転写を一般化し、説明できる。</p> <p>ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟と放出の各過程を説明できる。</p> <p>ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。</p> <p>ウイルス感染の種特異性、組織特異性と病原性を説明できる。</p> <p>主な感染様式の具体例を説明できる。</p> <p>ウイルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。</p> <p>ワクチンによるウイルス感染症予防の原理を説明できる。</p> <p>ワクチンの種類と問題点を説明できる。</p> <p>主なデオキシリボ核酸<DNA>ウイルス（サイトメガロウイルス (cytomegalovirus <CMV>)、Epstein-Barr <EB>ウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスB19、ヒトヘルペスウイルス、B型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>主なりボ核酸<RNA>ウイルス（インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、風疹ウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコー (enteric cytopathic human orphan <ECHO>) ウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、G型肝炎ウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>レトロウイルス (ヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus <HIV>) の特性と一般ゲノム構造を説明し、分類できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	講義については、出席は試験の受験要件に含めない。実習については全ての出席を試験の受験要件とする。			
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとしている。			
評価法	MCQ形式と記述形式の併用で試験を行う。実習レポートの成績を点数に含めることがある。本試験における合格基準点は点数の分布等を参考にして適宜決定する。			
推奨参考書	<p>シンプル微生物学 改訂第5版 南江堂 東匡伸・小熊恵二編 (2011)</p> <p>戸田新細菌学 第34版 南山堂 吉田真一・柳雄介・吉開泰信編 (2013)</p> <p>レビンソン微生物学・免疫学 原書第11版 丸善出版 吉開泰信・西山幸廣監訳 (2012)</p> <p>標準微生物学 第12版 医学書院 平松啓一・中込治・神谷茂編 (2015)</p> <p>病原微生物学 基礎と臨床 初版 東京化学同人 荒川宣親・神谷茂・柳雄介編 (2014)</p>			